

【記者からの質問】

<佐賀県の危機管理について>

NHK／今後、支援県として習熟するための具体的な取組は？

知事／佐賀県は大分県を支援することになっている。大分県庁へ県職員1名を出向させた。これも大事な取組。支援する際には、その地域事情に習熟しておくのは大切なこと。

CSOとの連携やオスプレイの活用について、まだ具体的なイメージが描けていない。支援県としてどのような支援ができるか考えていく。

また、陸・空の運行調整は大事な部分。報道ヘリとの調整もしながら、少しでも多くの命を救っていくといったノウハウが未成熟だと思う。

佐賀県が先鞭を切って、多方面での支援の熟度を上げていきたい。

<オスプレイについて（その1）>

NHK／オスプレイ配備は順調との認識が示された。今後どう向き合っていくのか。

知事／現在6機が配置され、8月中旬までに全17機を配置予定。訓練は始まっておらず、17機揃ってから訓練計画がなされるのだろう。

どのような運用に向けた訓練になるのか関心があり、防衛省と調整を開始した。10年間積み上げてきたことを守った形で運用されるよう期待する。平時の環境が続くのであれば、丁寧に進めていきたいと思いますと伝えている。

今後、基地の未整備施設の体育館、倉庫、燃料庫が順次着手される。安全な工事の進捗管理、海水と混合しながら排水する海水混合施設の運用と、今年は1年目の大切な年になる。

地域との信頼関係を1つ1つ積み上げる。これを双方が守っていくことが大事。

NHK／オスプレイの配備から約1週間。県に寄せられている相談事や苦情などは？

県職員／県に2件と佐賀市に2件。

NHK／訓練の開始時期、残り11機の移駐計画で具体的に示されているものは？

知事／過酷な訓練はやらない約束になっている。この10年は内局と調整してきたが、今回は部隊と直接話もしている。その中で個別の運用があり、双方にいい形で訓練できるように調整している。残りの11機の具体的な内容は聞いていない。

<九州新幹線西九州ルートについて>

NHK／先の定例県議会では、知事から地元3者トップ協議は、北陸新幹線の大阪延伸の問題を議論の切り口にしてはどうかとの提案があった。その後の協議の進捗は？

知事／幅広い協議でも、3者協議でもいつでもどうぞの姿勢。強く佐賀県からスケジュ

ール管理して進める話ではない。

ただ、北陸を題材に話し合うのは有意義なことだと思う。8月で案を出したが、3者が揃わなかった。協議することに意義があるので、先方から声掛けがあってもいいのだが。

<井上萬二様の訃報を受けて>

NBC／井上萬二さんへの個人的な思いやエピソードがあれば教えてほしい。

知事／知事になる前から応援してくれた。佐賀の大きな誇りである伝統産業を大事にしたい、都会化しなくても華やかさは作っていけるという話をした。現状に満足せず挑戦を続けてきた、と話をしたことも懐かしい。それからずっとそばにいてくれた。

有田焼の400年記念のとき、人間国宝の器でご飯を食べたいと萬二先生に尋ねたことがある。萬二先生は、食器として使ってもらうために作っているとおっしゃった。

焼き物に携わる皆さんが同じ心構えで作っておられると知り、カッコいいと感じた。萬二先生は90歳を超えてもお元気で、ご子息を亡くされたときは力を落としていらっしやしたが、お孫さんの活躍もある。もう少しお元気でいてほしかった。本当に悲しい。

NBC／予科練の生き残りで、鹿児島で終戦を迎えた。日本を発展させてきたお一人で、戦後80年という意味でも大きな出来事だったのでは？

知事／有田出身の古賀海軍大将の話をよくされ、その慰霊の集いに誘われ、ご一緒した。戦争経験者の立場で、この大戦を忘れず、繰り返さないようにとおっしゃっていた。

世界中が不安な情勢の中、戦争を語れる人が亡くなるのは残念だ。その思いを我々が受け継いでいかねばと強い気持ちになった。

<佐賀県の危機管理とオスプレイについて>

日経新聞／佐賀駐屯地の隊員が災害対策本部に参加したり、オスプレイで救助活動をしたりといった訓練を想定しているのか。

知事／現時点では想定していない。ただ、様々なことにリエゾンとして入ってくるだろう。今でも災害の予兆があれば、久留米や目達原の方が県庁に詰めてくれている。年に3回ほど意見交換もしている。青山佐賀駐屯地司令にも来てもらうことになるだろう。

オスプレイは輸送には適しているが、災害時にどのように使うかは、まだイメージできていない。これから意見交換して、効果的な活用法を共有したい。

<渇水対策について>

読売新聞／今年は梅雨明けが早かったが、現時点での水不足・渇水に対する危機感は？

知事／今年は、5月以来水不足・渇水の報告が私まで上がってきていないので、ダムは貯水されているのだと思う。後ほど、報告させたい。

<オスプレイについて（その2）>

佐賀新聞／オスプレイが2機連続で飛来した際、民間機が離陸するのを待ち、2機目が着陸した。民間機への影響は？

知事／特にない。今は平時なので民航機が優先。オスプレイが飛来する時期だから、時間調整もできる。

影響という範疇かどうかだが、佐賀一羽田線に自衛隊関係者がよく搭乗している。佐世保相浦駐屯地関係者の利用など、想定していなかった人の動きがでてきた。

改めて、想定外の出来事にも丁寧に対応していく必要性を感じた。

<外国人政策について>

佐賀新聞／参院選で排外主義的主張が存在感を発揮している。政治家として、排外主義に対してどういうお立場か。

知事／今までの私の言動でわかるように、外国人の皆さんも共に過ごしやすい佐賀をつくりたいと思っている。佐賀では、外国人の皆さんが大きな力になり、介護・農業など様々な分野で幅広く活躍している。

仕事のマッチングをする「さが外国人材雇用サポートセンター」もつくった。政治家として、共に強い佐賀をつくっていくという考え方で判断していく。

<気候変動について>

佐賀新聞／県内で、気温上昇の課題や影響が出たりしていれば教えてほしい。

知事／気候変動で世界中が大変なことになっている。気候変動は徐々に忍び寄ってきて、人が暮らしていけない地球に近づいているような気がする。

大事なものは、みんなで取り組むこと。特に地域単位で取り組むことだと思う。人間が共存していくためには、お互いが分かち合い、理解しながら未来の子どもたちのためにという王道の考え方を共有しなければならない。

ところが、今の国際間の摩擦は、自分のところだけよければいい、短期的な視点でメリットがあればいいという覇道が跋扈している。そうすると、みんなのために気候変動に取り組む気持ちが萎えてくる。危険な方向に向かっているようで危惧している。

佐賀新聞／環境問題や気候変動への対策があれば教えてほしい。

知事／来年波戸岬にオープンする PLA・PLA（世界海洋プラスチックプランニングセンター）は、意欲的な取組。プラスチックごみで海洋が汚染され、魚がプラスチックを食べてしまう問題がある。

佐賀県から国際的問題提起を行う。「波戸岬から世界へ」どの程度反響があるかわからないが、まずやることが大事。まずやってみて、別の地域から声が上がって、地域発で

の取組を増やし、覇道を押し込むような大きな流れになるよう、地域発にこだわりたい。